

沖縄県立看護大学院
博士前期課程 島嶼保健看護領域
一年次:宮平みのり

今年の4月から大学院生として、働きながら通っています。

院生として3か月目に入りますが、本学との遠隔システムを利用し、講義を受けています。離島にいながら、本学と変わらない講義を受けられること、また交通費用の面からも、この遠隔システムは、とても助かっています。



沖縄県立看護大学院
博士前期課程 島嶼保健看護領域
一年次:下地千里

島嶼保健看護領域博士前期課程の下地です。宮古島から衛星を使っての講義を受けています。働きながら、学びの場がありこのシステムはとてありがたいです。

仕事、家庭、大学院と多忙ですが、システムがあって沖縄本島に行く時間や費用などが軽減され、さらに高度な講義内容で本学と変わらない環境が整っています。

これから島嶼で働く看護師もこのシステムで学んでいけたらいいなと思います。



沖縄県立看護大学大学院 島嶼保健看護学 博士後期課程 知念久美子

大学を卒業後、私は県立宮古病院に3年間勤務しました。大学在学中より離島の看護に関心があったのでとても貴重な時間を過ごすことが出来ました。その時、「住民の力(みんなで頑張る・支えあう力)」が強い、そして住民が島の文化をとて大切にしている事に強く惹かれました。その「住民の力」はどこから出てきているのか?その問いの答えが見つからないままでした。大学院に進学し島嶼保健看護を学びはじめて、島嶼ならではの文化が住民の健康意識や行動に影響している。そして今まで感じていた「住民の力」の源は、島嶼ならではの文化や生活の中から生まれているものであると改めて感じました。また、島嶼で働いている保健看護職者は、専門職でもあり、島嶼住民の一員でもある。このことを考慮し、島嶼で暮らす住民の視点、島嶼で働く保健看護職者の視点から、今後、島嶼ならではの「住民の力」をより発揮できる看護とは何かを探究していきたいと思ひます。